

3 生産活動

(1) 鉱工業指数(総合)

平成17年の本県の鉱工業は、年初は、昨年後半からのアテネオリンピックに向けた需要見通しがやや高めであったことなどもあって世界的な情報関連材の需給軟化がみられ、情報化関連部門の在庫調整や輸出の鈍化により指数を下げている。年央からはアジア向けやアメリカ向けを中心に景気が回復し生産や出荷がプラスに転じるようになった。しかし、年末には在庫の積上がりが目立ちはじめた。

この結果、平成17年の**鉱工業生産指数**は103.4、**対前年比3.9%**となり、**3年連続で前年を上回った**(図17-1、図17-2)。

鉱工業生産指数の業種別寄与度でみると、情報通信機械工業、電気機械工業が大きく寄与している。一方、電子部品・デバイス工業や化学工業等は、年初からの在庫調整により生産が前年より低下し生産指数を押し下げたが、全体ではプラスとなった(図20)。

平成17年の**鉱工業出荷指数**は109.9、**対前年比5.2%**となり、**4年連続で前年を上回った**(図18-1、図18-2)。

鉱工業出荷指数の業種別寄与度でみると、情報通信機械工業、電気機械工業が大きく寄与している。一方、電子部品・デバイス工業や化学工業が年初から年央にかけて出荷が低下し出荷指数を押し下げたが、全体ではプラスになった(図21)。

平成17年の**鉱工業在庫指数**は135.2%、**対前年比15.6%**となり**2年振りに前年を上回った**(図19-1、図19-2)。

鉱工業在庫指数の業種別寄与度でみると、情報通信機械工業が好調な出荷を背景に在庫減とななりマイナスに寄与している。一方、化学工業、食料品・たばこ工業、電子部品・デバイス工業等が在庫増となり在庫指数を押し上げた結果、全体としてはプラスとなった(図22)。

【鉱工業指数】

鉱工業製品の生産量、出荷量、在庫量を基準年を100として(現在は平成12年=100)指数化したものです。好況時にはモノがよく売れ、企業が製品を増産するため生産、出荷とも上昇します。景気が悪化してくるとモノが売れなくなるため出荷の減少、在庫の増加局面を経て生産の減少に至ります。

【 鋳工業指数(生産・出荷・在庫)の推移 】

図17-1 鋳工業生産指数

(H12年=100)

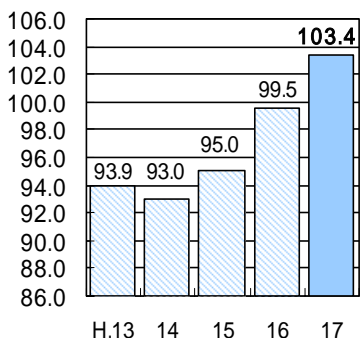


図18-1 鋳工業出荷指数

(H12年=100)

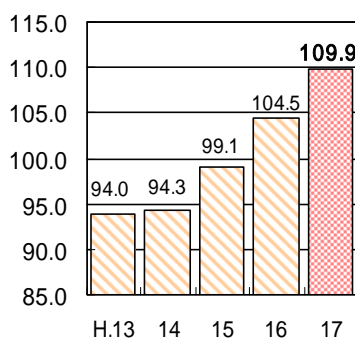


図19-1 鋳工業在庫指数

(H12年=100)

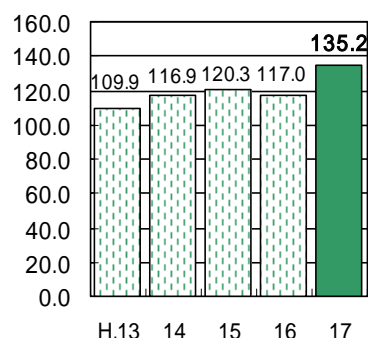


図17-2 対前年比

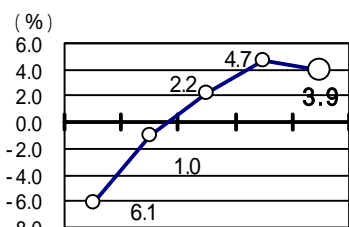


図18-2 対前年比

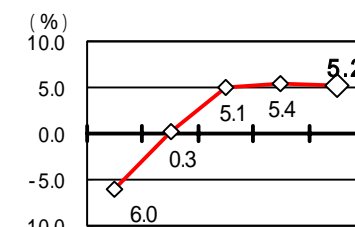
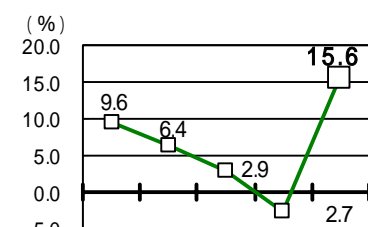


図19-2 対前年比



備考 1 (資料:福島県情報統計領域「鋳工業指数月報」より作成)

【 鋳工業指数(生産・出荷・在庫)の業種別寄与度の推移 】

図20 業種別寄与度(生産)

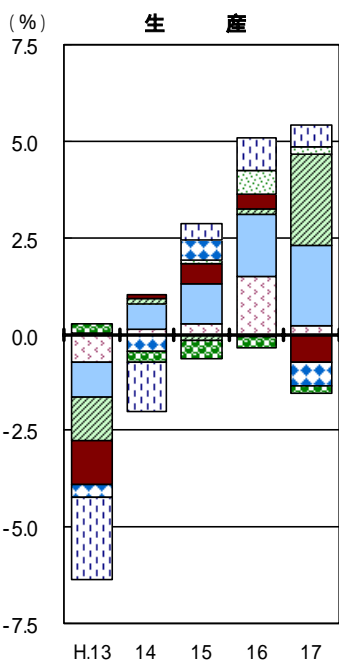


図21 業種別寄与度(出荷)

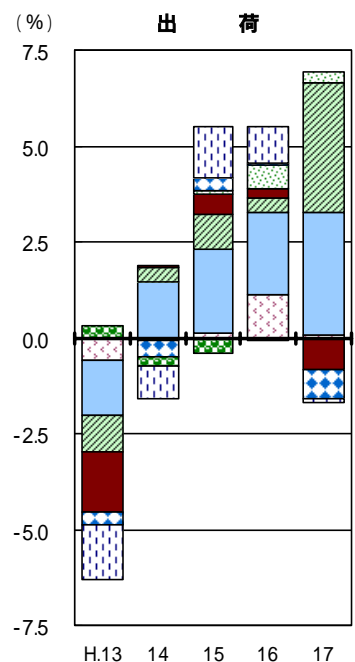
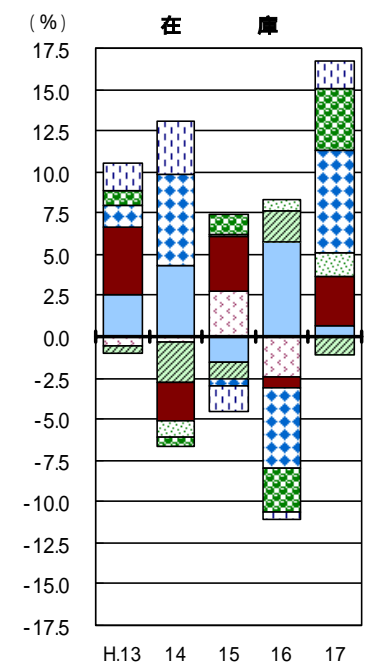


図22 業種別寄与度(在庫)



- | | | | |
|------|------|---------|-----------|
| 一般機械 | 電気機械 | 情報通信機械 | 電子部品・デバイス |
| 輸送機械 | 化学 | 食料品・たばこ | その他 |

備考 1 (資料:福島県情報統計領域「鋳工業指数月報」より作成)

指標は、P.67～P.75に掲載

(参考1) 鉱工業指数(財別)

平成17年の鉱工業生産指数の財別の動きを寄与度でみると、生産指数は総合で前年を上回っており、特に企業業績の回復を反映して資本財が2年連続で、生産財が4年連続で増加している。また、家計で購入されている耐久消費財はデジタル地上放送の開始などからデジタル家電の売上げが増えており、5年振りにプラスに寄与している。しかし、非耐久消費財は個人消費の低迷によりマイナスに寄与している(図23)。

(参考2) 在庫循環図

在庫循環図上で生産活動の動きをみると、平成17年第 四半期は、「意図せざる在庫減局面」から「在庫積み増し局面」に移った。平成17年第 四半期には、生産が前年同期を上回り、在庫が前年同期を下回ったが「在庫積み増し局面」を維持した。しかし、第 四半期になると、生産は緩やかに前年同期を上回って推移したが、在庫が前年同期に比べて大きく増加し、「在庫積み上がり局面」になった。第 四半期になっても在庫が増加基調を強める結果となり、「在庫積み上がり局面」で足踏み状態が続いた(図24)。

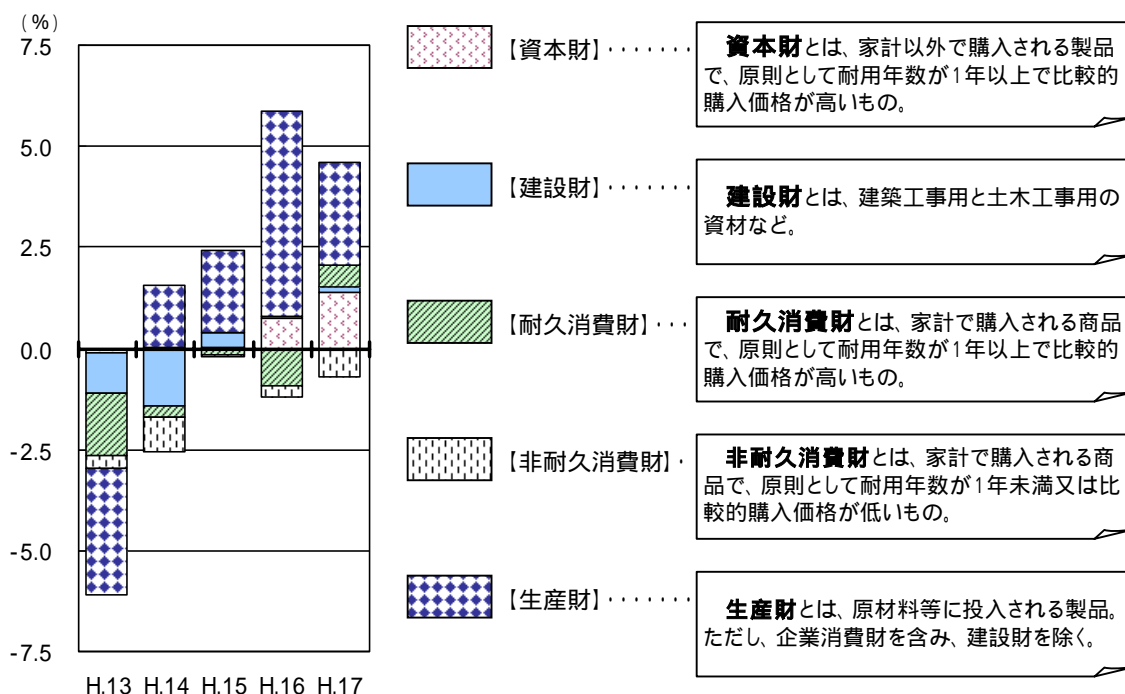
【在庫循環図】

企業は、将来の需給見通しや物価、金利をにらみながら、在庫量をコントロールします。その結果、景気の局面ごとに「意図せざる在庫減局面」「在庫積み増し局面」「在庫積み上がり局面」「在庫調整局面」と在庫循環が起こります。

なお、循環の方向は、時計の針の動きとは反対になる傾向があります。

【 鉱工業生産指数財別寄与度の推移 】

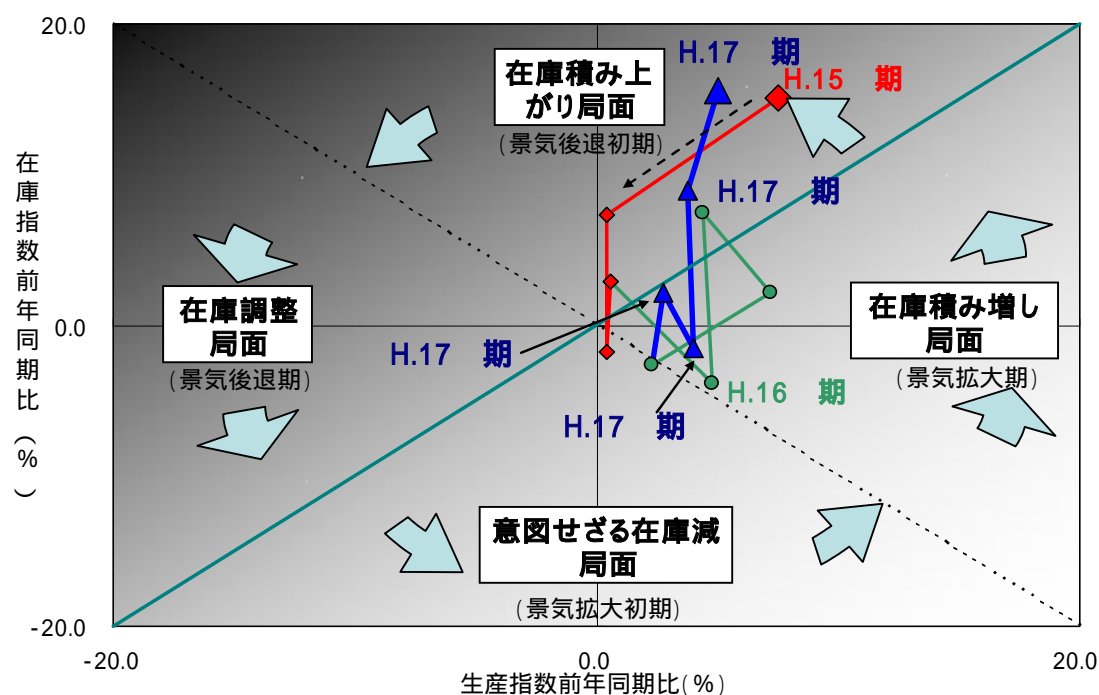
図23 財別寄与度



備考 1 (資料: 福島県情報統計領域「鉱工業指数月報」より作成)

【 在庫循環図の動き 】

図24 在庫循環図の動き



備考 1 (生産指数は四半期平均値、在庫指数は四半期末値)
 2 (資料: 福島県情報統計領域「鉱工業指数月報」より作成)

(2) 大口電力使用量と大口契約最大電力

平成17年の大口電力使用量は約5,813百万kWh、対前年比3.2%となった。特に年後半にかけて製造業の使用量が増加傾向で推移し、7年連続で前年を上回った(図25-1、図25-2)。

平成17年の大口契約最大電力は約1,312千kW、対前年比1.8%となり、3年連続で前年を上回った(図26-1、図26-2)。

大口需要稼働率の1年間の推移をみると、年初においては、使用量の伸びが契約最大電力の伸びを下回り、わずかに各工場設備の稼働率が低下したが、年央から後半にかけては、機械や非鉄金属の生産が好調に推移し、使用量の伸びが契約最大電力の伸びを上回り、各工場設備の稼働率が上昇、全体では稼働率が高水準で推移した(図27)。

【大口電力使用量、大口契約最大電力】

契約電力500kWh以上の大口の電力需要。産業の生産活動における生産要素の一つであるエネルギー面の投入量を示す指標です。主要産業の経済活動を敏感に反映し、速報性があります。

大口電力使用量は、生産活動の活発さを示しており、大口契約最大電力は工場の生産活動と設備投資の伸びを示す指標となっています。

【 大口電力使用量及び大口契約最大電力量の推移 】

図25 - 1 大口電力使用量

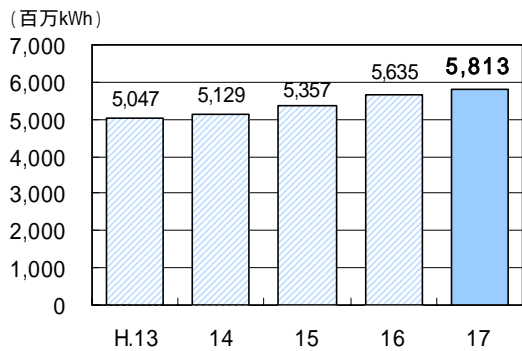


図26 - 1 大口契約最大電力量

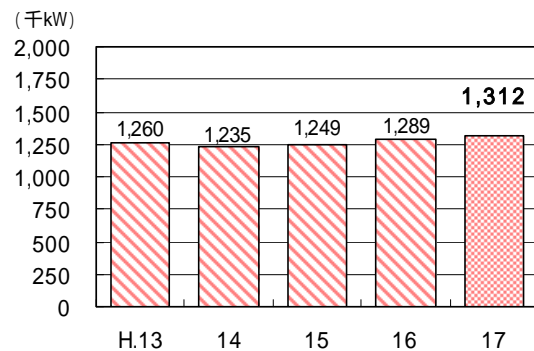


図25 - 2 対前年比

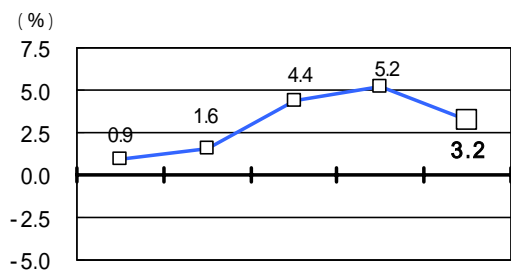
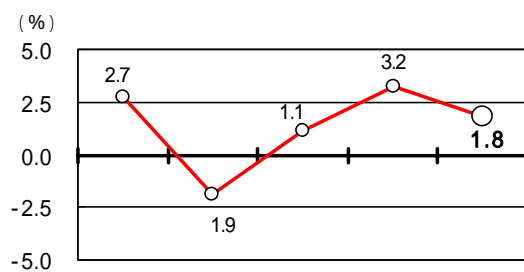


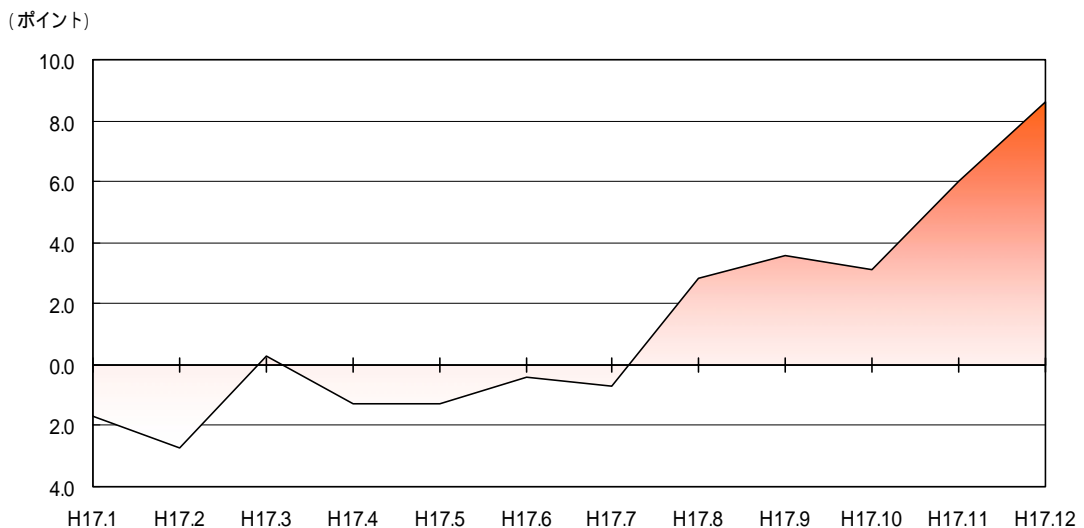
図26 - 2 対前年比



備考 1 (資料:東北電力株式会社福島支店「大口電力需要総括月報」より作成)

【 大口電力需要稼働率の推移 】

図27 大口電力需要稼働率



大口電力需要稼働率とは、大口電力使用量(前年同月比)から大口契約最大電力量(前年同月比)差し引いたポイント数で、使用量の伸びが契約最大電力量の伸びを上回る場合には、各工場設備の生産を増加させ、稼働率が上昇し、逆に契約最大電力の伸びが使用量の伸びを上回る場合には、稼働率が低下していることを表す。

備考 1 (資料:東北電力株式会社福島支店「大口電力需要総括月報」より作成)

指標は、P.76に掲載